

7. 木質バイオマス利活用の実態 (21) 20230619

わが国での石油燃料に対する木質燃料の価格競争力

前回の 7 (20) では、オーストリアにおける木質燃料は、石油燃料に比べて安価で価格も安定し利用者にとって魅力ある燃料であることを示した。果たしてわが国の木質燃料の評価は・・・？

わが国では木質燃料の価格の統計資料としては、発電用のチップ (JWBA) や輸入ペレットに見ることができるが、熱利用を対象としたものについては、ペレットの販売価格 (日本木質ペレット協会 2020) が見られる以外極めて少ない。そこで今回、熱利用のボイラ用ペレットとチップに限っての価格情報を収集し、図表 7.24 にまとめた。その結果、オーストリアに比べてペレットは約 2 倍近く割高であること、チップについては水分率差を考慮すればほぼ同等であると推測できる。

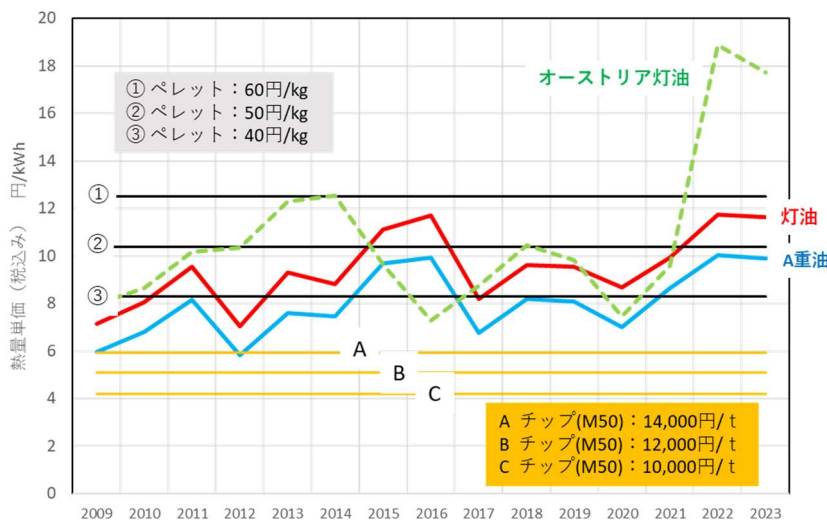
	ペレット (ボイラ用) 円/kg (税込、運賃なし)	熱利用チップ 千円/t (税込、運賃なし)	備考
国内	31-50-65	9-約12-14 (M=50%)	2022-23年聞き取り調査
オーストリア	24.9-28.1-30.8	13.2-14.7-15.9 (M=30%)	2009-21年の年平均の最小、平均、最大

図表 7.24
熱利用木質燃料の
販売価格

図表 7.25 は、2009 年以降のわが国の灯油と A 重油の年平均熱量単価と、ペレットおよびチップの異なる販売価格での熱量単価を横棒で示している。各年次で横棒の値が灯油あるいは A 重油の値よりも低い場合は熱量的に安価、高い場合が割高といえる。

ペレットの場合、単価 50 円/kg では灯油より割高感が強く、40 円/kg で割安の場合が現れる。しかし A 重油よりは割高といえる。因みにわが国の石油単価は 2022 年 2 月以降は国の特別な補助により灯油約 110 円/L、A 重油約 100 円/L のほぼ一定額に抑えられており、熱量単価も一定した値を維持している。この水準が維持される限り、ペレット単価が 40 円/kg 以下、すなわち 30 円/kg 台になると確実に魅力ある燃料に位置づけられることになる。

一方チップではどの例示単価でも A 重油より割安で、現時点において石油燃料に対する価格競争力のある燃料といえる。



なおわが国石油の熱量単価はオーストリアのそれよりも低い場合が多い。とくに 2022 以降の熱量単価がオーストリアとの間での大きな格差は、両国間の石油価格政策が木質燃料の価格競争力にも関係することを示唆する。

図表 7.25 木質燃料の石油燃料に対する価格競争力の比較